

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：24402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520169

研究課題名(和文)アートプロジェクトにおける、市民の「関わり」今日的手法とその変遷について

研究課題名(英文)a

研究代表者

雨森 信(Amenomori, Nov)

大阪市立大学・都市研究プラザ・特別研究員

研究者番号：40614657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：1990年以降、日本各地において急速な増加を見せるアートプロジェクトは、疲弊する都市や地域再生の道具として捉えられることも多くなり、アートの持つ批評性が失われているのではないが懸念されている。本研究では、特にアートプロジェクトの発生に関わる1950年代からの年表の作成と、80年代の動向に着目し、アーティストの内発的動機に焦点をあてた文献資料と聞き取り調査を行い、原点を振り返りながらアートプロジェクトの現場を考察した。

研究成果の概要(英文)：Community based art projects have rapidly increased in Japan since the 1990s. Previous studies argue that municipal governments utilize those arts in order to regenerate the urban decay, but, at the same time, such arts as tools of urban regeneration have possibilities to spoil critical aspects of art. This research project breaks down into two parts. First one is to take a look at pre-histories of community based arts in Japan from the 1950s to the 1980s and examine historical trajectories of them. Second one is to collect archival materials and conduct interviews to artists, especially focusing on motivations of the artists and the community based art movements in the 1980s.

研究分野：芸術学

キーワード：アートプロジェクト アートマネジメント

## 1. 研究開始当初の背景

日本におけるアートプロジェクトに関する研究は、初期の事例研究として『社会とアートのえんむすび 1996-2000 つなぎ手たちの実践』(2001)があり、2009年には、2000年以降の動向も含め、「日本のアートプロジェクト その歴史と近年の展開」(2009)がまとめられた。一方で、2000年に入り、「創造都市」という概念が広がり、疲弊する都市、崩壊する地域の再生や活性化の手段の一つとして注目を集めるようになり、公的資金が導入される大型のアートフェスティバルも増え、その経済的効果や社会的インパクトが強くと求められるようになった。

## 2. 研究の目的

本研究は、1990年以降、日本各地において急速な増加を見せるアートプロジェクトの発生と変遷について明らかにすること。そのなかでアーティストのモチベーションがどのように変化し、表現活動のなかで場所や人びとの関わっていくようになったのかを分析すること。今後、アートプロジェクトが地域のなかで活動を持続可能なものにしてゆくためのアートマネジメントについて考察することを目的とする。

## 3. 研究の方法

1) 90年代アートプロジェクトの発生とつながる50年代から70年代の美術の動向についての文献、資料より年表を作成し系譜を明らかにする。2) 現在のアートプロジェクトの萌芽が見られる80年代の動向について関連する文献研究および資料収集、主要関係者へのインタビュー調査を実施する。3) 90年以降のアートプロジェクトの資料収集と必要に応じて現場視察、ヒアリングを実施する。さらに本研究代表者である雨森の現場における実践研究も加え、4) 上記、1)-3)より、現在のアートプロジェクトにおけるアートマネジメントの現状と課題を考察した。

## 4. 研究成果

(1) 90年以降のアートプロジェクトが全国各地で展開されるようになる以前、主に80年代、アーティストの表現活動にどのような変化があったのか、彼、彼女らの動機に着目し文献および聞き取り調査を行った。対象は、現在もアートプロジェクトの最前線で活動するアーティストとした。

80年代に実施されたアートの実践は、「牛窓国際芸術祭」(1984-1992)を除いて、ほとんどがアーティスト個人のプロジェクトとして、またはアーティストが集まって開催した野外での美術展が中心となる。川俣正、藤浩志、柳幸典など、現在のアートプロジェクトを牽引するアーティストたちが、それぞれに既存の美術システムに対する違和感を持ち、彫刻や絵画といったこれまでの表現手法や素材ではなく、サイトスペシフィックなインスタレーションといった新しい表現とそのための場を切り開いていった。1983年に京都で実施された「ART NET WORK '83」の主宰者であり出品作家の一人でもあった藤浩志は、この時の経験から、何かをすることで予期せぬ「こと」が起こるという「仕掛け」、また、その「こと」が享受される(もしくはされない)社会のしくみに興味を持つようになる。この時期に行われた野外での展示(プロジェクト)は、鑑賞者との関わりを意識して取り組まれたものではなかったが、アーティストがここで遭遇することになった予期せぬ出来事は、美術の領域を超えて次の表現を生み出す新たな課題と出会う機会となっている。また、現在、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」や「瀬戸内国際芸術祭」のディレクターである北川フラムは、1982年「子どものための版画展」を立ち上げ全国80校を巡回し(1982)、1988-1990年にかけては「アパルトヘイト否!」国際美術展を専用トレーラーに積んで日本で巡回させていることから、80年代は、アートプロジ

エクト前史（加治屋,2009）のなかでも、現在のアートプロジェクトにつながる重要な萌芽の時期として見る事ができる。

90年代前半に立ち上がるアートプロジェクトもアーティスト主導のものが多い。そのなかも、芸大で陶芸を学んだきむらとしろうじんじんによる「野点」は、1995年より現在まで20年に渡って路上や公園や河原など、全国各地の様々な場所で行われている。大小2台のリヤカーに、陶芸窯・素焼きのお茶碗・うわぐすりなどの陶芸道具一式と、お抹茶セット一式を積んでまちの様々な場所にあらわれる移動式カフェ - 旅回りのお茶会である。通りがかりの人を含む様々な人々に開かれた場を美術の権威で守られた空間ではなく路上に出現させる。きむらは、褒められたり、叱られたりけなされたり、その現場で発生する予想外の出会いやハプニング、大小様々な物語が起こる状況そのものを「魅力的な風景」とし、それら誘発する場として設計している点で、「市民との関わり」が作品のなかにあらかじめ組み込んでいることが分かる。きむらのなかには、様々な理由で分断される人々を作業と魅力を中心において、つなぎなおすという社会に対する批評性が表現の根底にはあることも聞き取りにより明らかになっている。

90年代初頭は日本の文化環境が大きく変化した時代（熊倉,2014）とも言われ、1990年、芸術文化振興基金の創設と企業メセナ協議会の発足、1994年には財団法人地域創造が設立され、新しい芸術文化を支える制度がつくられていった。またアートと社会の橋渡しを目的としたアートプロジェクトへの助成と研究を行うドキュメント 2000 プロジェクト（1995-2000）やトヨタアートマネジメント講座が1996年から2004年まで全国で開催され、地域に密着したアートマネジメントの担い手が各地で育っていくことになる。

他方で、バブル経済の崩壊やオウム真理教

による地下鉄サリン事件、就職難や不登校、引きこもりの問題など、戦後急ピッチで経済成長を遂げた日本社会の膿みがいっきに表面化した時期でもある。さらに、甚大な被害を及ぼした阪神淡路大震災は、アーティストやアート関係者にとって、芸術が社会に果たしうる役割を再考する大きな契機となり、アートプロジェクトは2000年代に入りさらに増殖していくことになった。

上述した外的要因だけでなく、アートの未知なる可能性に気付いたアートマネジメントの人材が現れたこと、また現実の社会とダイレクトにつながって活動しようとするアーティストの存在があったことで、「人々の関わり」をつくることに重きをおくプロジェクトが増えたといえるのではないだろうか。活動の様々なプロセスにおいて多様な関わり方をマネジメントしていくという手法である。

本研究では、80年代のアートプロジェクト前史から現在にかけて、アーティストの内発的動機とアートマネジメントの変遷を振り返りながら、現在のアートプロジェクトとそのアートマネジメントについて考察を行った。アートプロジェクトも発生から約20年が経ち、さらに変動していくことが予測される。しかしアートプロジェクトの現場において、いかに「継続」していくのか、というのは長きに渡って課題のままである。それに付随して取り組むべきトピックは評価についてであり、本研究では触れられなかったため、今後の課題としたい。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2件)

(1)雨森信「アートと地域をつなぐアートマネジメントの実践」、『市政研究』186巻, pp.82-95,2015,査読無

(2)雨森信「第三の方法としての表現活動」  
『3331TRANS ART』Vol.4, pp.13-14, 2012, 査読無

〔学会発表〕(計 4 件)

(1) 'Community engaged art project in Japan', "The 10th International Conference of Asian Arts Management", De La Salle University(マニラ/フィリピン), 2016年3月18日

(2) 'Art Project Overview in Japan', "The 9th International Conference of Asian Arts Management", Black Box, MAPKL(クアラルンプール/マレーシア), 2014年12月16日

(3) 'Arts Management for Community-based Art Project', "The 8th International Conference of Asian Arts Management", Chulalongkorn University(バンコク/タイ), 2014年3月18日

(4) 'New direction of arts management in Contemporary society: Community Based art project as grass-roots advocacy', "The 11th Annual Urban Research Plaza Forum", Chulalongkorn University (バンコク/タイ), 2013年3月4日

〔図書〕(計 3 件)

(1)雨森信/竹内厚(編)『場所: Breaker Project Document Book 2014-2015』, ブレーカープロジェクト実行委員会, 2016年3月

(2)雨森信/竹内厚(編)『Breaker Project 2011-2013』, ブレーカープロジェクト実行委員会, 2014年3月

(3)雨森信(共著)『絶滅危惧・風景のまちで』, 熊倉純子(監修)菊地託児、長津結一郎(編集)『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』, 水曜社, 2014年1月, pp.222-227

〔その他〕(計 2 件)

(1)フォーラム 公共と芸術: セッション 3 「社会にアートは必要か」に登壇, 札幌駅前地下空間 | 憩いの空間E, 2015年9月19日

(2)ラウンドテーブル「地域資源を活用した創造活動拠点」を企画・登壇, 大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco], 2015年3月19日

6. 研究組織

(1)研究代表者

雨森 信 (AMENOMORI Nov)

大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員

研究者番号: 40614657